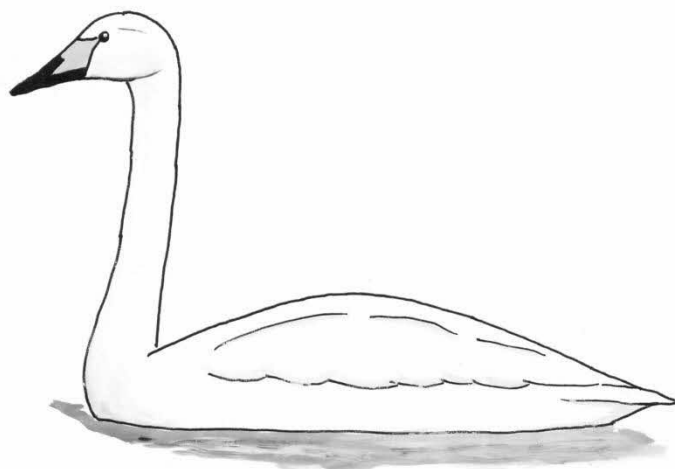


ウトナイ湖のハクチョウ

ウトナイ湖には、3種類のハクチョウがすんでいます。それぞれのからだやくらしのちがいについて見てみましょう。

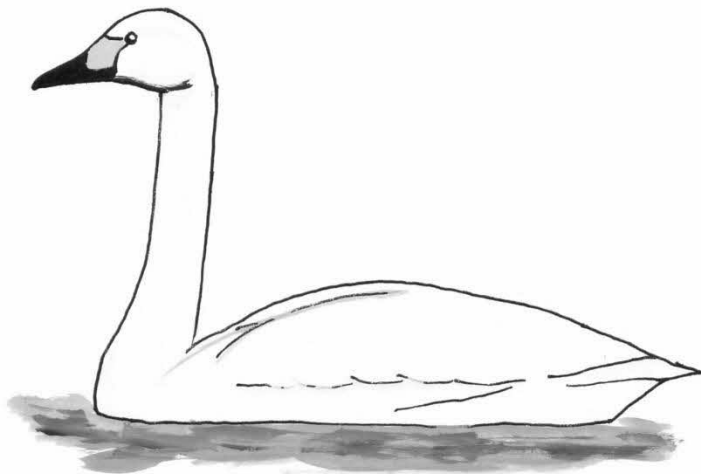
オオハクチョウ



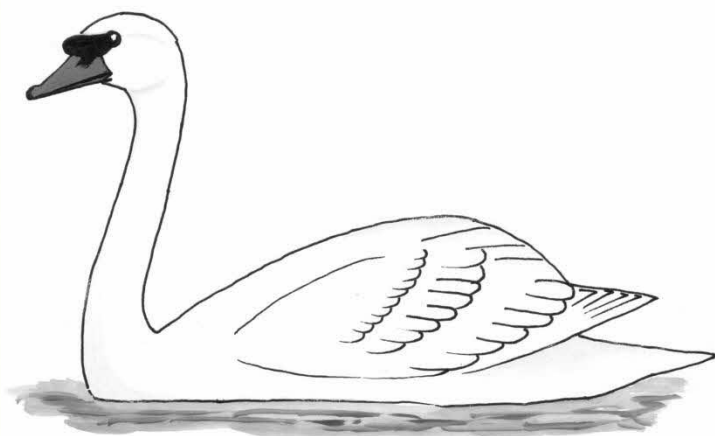
3種類のうちで、2番目からだの大きいハクチョウ。くちばしの黄色いところがとがって見え、コハクチョウと見分けるときのポイントになります。首が長く、水面でさかだちをしたりして、カモの首がとどかないような、深い水底にある水草をたべます。また、湖のそとへとんでいって、田畑で草やおちているイネなどを食べるものもいます。秋、シベリアを飛び立ったものが、10月20日ごろに飛来し、次の年の春3月ぐらゐまでウトナイ湖ですごします。

コハクチョウ

3種類のうちで、いちばん体の小さいハクチョウ。くちばしの黄色いところはまるまっでいて、オオハクチョウと見分けるときのポイントになります。首はオオハクチョウより太く、短く見えます。水面でさかだちをして水草を食べたり、大きなみずかきのついた足で、水底の水草の根をほりおこして食べたりします。秋はオオハクチョウよりも1週間から10日ほど早い10月10日ごろに飛来します。ウトナイ湖の水面がこおる真冬は、本州の方へ移動してしまうため、ほとんどみれらなくなります。



コブハクチョウ



3種類のうちで、いちばん体の大きいハクチョウ。くちばしはオレンジ色で、つけねに黒いこぶのようなものがついているので、ほかのハクチョウと見分けるときのポイントになります。

ウトナイ湖には1年中すんでいます。冬には数が少なくなります。夏に、湖の岸に草をつんだ巣をつくって卵をうみ、かわいいひなをつれた家族をみることもできます。ほかのハクチョウとおなじように、水草をたべます。

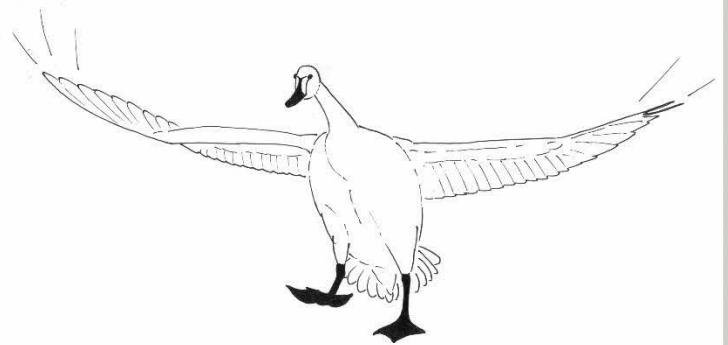
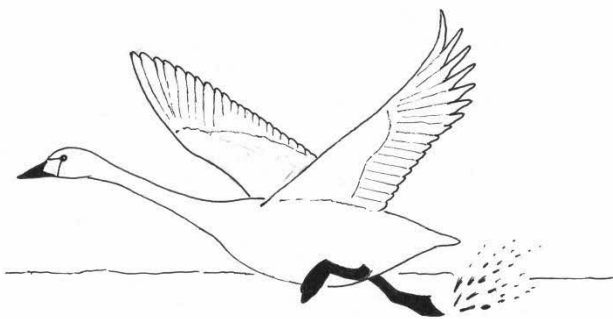
ハクチョウのこんなところを見てみよう

ハクチョウの飛び立ちと着水

みなさん、ハクチョウの体の重さはいくつぐらいか知っていますか？ いちばん大きなコブハクチョウで最大16kg、小さなコハクチョウでも8kgぐらいあります。

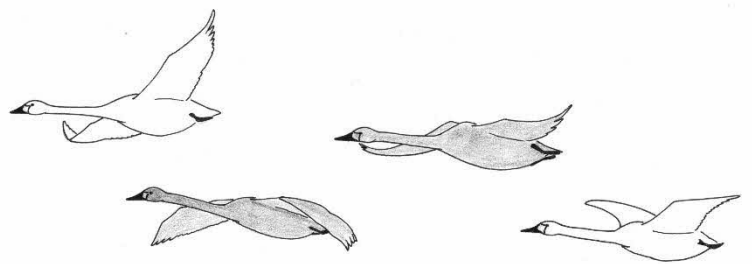
けっこう重たいんですね。それが空をゆうゆうと飛ぶのですから、ハクチョウの飛び力はすごいものです。

体の重たい鳥ですから、飛び立つときにはカモのようにすぐに水面から飛び上がることはできません。下左の図のように、水面をおおきな足でけて、数十メートルも助走をしないと飛び上がれません。着水するときは、車とおなじくらいのスピードで飛んできますから、うまく着水するにはブレーキが必要。ということで、ハクチョウは大きなつばさと尾の羽、そして足の水かきをめいっぱい広げて、速度をおとし、きれいに着水するんですよ。着水すると、しばらく水面をスケートのようにすべるのがおもしろいですね。



ハクチョウはいつも家族がいっしょ

ハクチョウをよく見てみると、白くてきれいなものと、ちょっとすすけた灰色っぽいものがあります。すすけているのはその年にうまれた幼鳥。ハクチョウは冬の間、家族で生活し、どこへいくにもいつもいっしょ。飛んでいるときや、水面を泳いでいるときは、たいてい親鳥が先頭とうしろにいて、子どもたちをはさんでいます。とっても家族愛が強い鳥なんですね。



ハクチョウはどこからやってくる？

渡りをするオオハクチョウ、コハクチョウの古里は、ロシアの北極圏にちかいシベリア地方です。木のほとんどはえない広大な湿地帯で子育てし、秋、3000km以上の距離を渡って日本へやってきます。

渡りのコースは、オオハクチョウ、コハクチョウともほとんど同じで、ロシアのオホーツク海沿岸のオホーツクやマガダン付近から、サハリンをとおって北海道へきます。北海道に渡ってきたオオハクチョウは根室、釧路地方から太平洋側を本州へ（灰色の線）、コハクチョウは稚内から日本海側を本州へいく（黒い線）ルートがわかっています。

